

3年ぶりに通常総会と意見交換会を開催しました

新型コロナウイルス感染症が蔓延し、令和2年3月見学会「阪神高速大和川線と国道371号石仏バイパス」からほぼ2年間、会員の皆さんの健康を第一と考え、通常総会や見学会を開催することができませんでした。この間、議案については、書面決議を受けて、新入会員の勧誘などの会の運営を行ってきました。ご紹介が大変遅くなりましたが、令和2年度に2名（井上（明）さん、川上さん）、令和3年度に3名（谷野さん、濱澤さん、山田（順）さん）の新入会員を迎えることができました。

年度が替わり、3回目のワクチン接種が進み、感染症が少し落ち着いてきたことや大阪府からの府民への要請が緩和されたことなどを受け、6月24日（金）大手前のドーンセンター1階の「凜」にて、24名の会員に参加をいただき、3年ぶりに、令和4年度通常総会及び意見交換会を開催することができました。

総会では、令和3年度の決算報告、令和4年度の事業計画案、予算案などについて、承認されました。また、今年度、3名（香川さん、吉備さん、錦織さん）の新入会員を迎え、総勢47名の大世帯になりました。引き続き、意見交換会に移り、時間の許す限り、久しぶりの旧交を温めました。ご参加いただきました皆さん、ありがとうございました。新型コロナウイルス感染症の状況を見ながらではありますが、見学会等の活動を計画していきますので、ご協力よろしくお願いいたします。

令和4年度 見学会がコロナで残念ながら中止になりました

7月29日（金）に企画していました「彩都のまちづくり」及び「安威川ダム建設事業」の見学会が、コロナ感染拡大を受けて、寸前で中止することになり、楽しみにされていた皆さんに大変なご迷惑をおかけしました。今年1月も同じ場所で見学会を企画し、2度とも実施できず、現地見学の絶好のタイミングを逃してしまいました。コロナとはいえ先読みの甘さをお詫びするしかありません。安威川ダムでは、9月から、試験湛水が始まり、水が貯まっていく様子が見られるようです。



初冬に、令和4年度 講演会を開催しました

夏に感染拡大したコロナ第7波が少し収まっている、この間の活動として、基本的な感染防止対策を講じて、講演会を企画しました。

12月2日（金）午後、国民會館大阪城ビル12階の武藤記念ホール（小ホール）にて、会員21名の参加をいただきました。講師に、大阪都市計画局 進士副理事をお招きし、令和3年11月に、大阪府と大阪市の共同で設置されました「大阪都市計画局」の役割と「新しいまちづくりのランドデザイン」などについてお話を伺いました。

◆ 大阪都市計画局について

過去の二重行政（大阪府は市域内、大阪府は市域外 連携不足 府市それぞれで成長の方針・計画など）に戻すことなく、府市一体の大阪を継承・強化するため、一体的な行政運営の推進に関する条例が策定されました。この条例に基づき共同で設置された「大阪都市計画局」は、大阪の成長や発展を支える大都市のまちづくりについて、広域的な視点から府市一体で推進するため、府市それぞれのノウハウ・ポテンシャルを最大限に発揮し、大阪全体のまちづくりを進めています。



◆ 都心部の取組み

大阪全体の発展を支えるまちづくりについて、4つの拠点を「広域拠点開発」として位置づけ、計画策定から事業推進までの一連の過程を、より迅速・強力かつ効果的に実施しています。

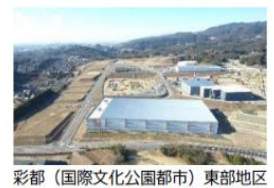
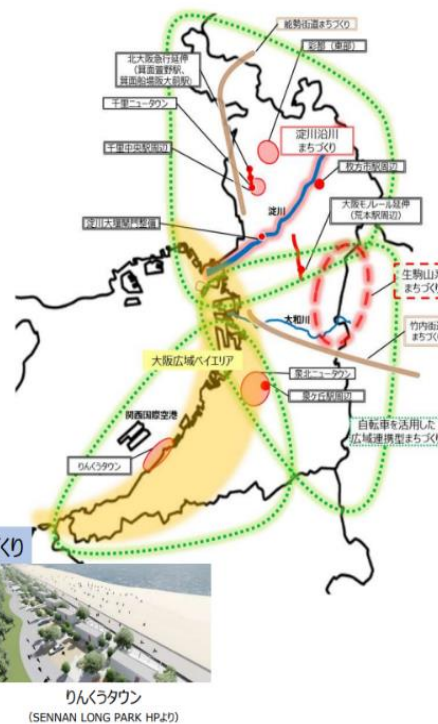
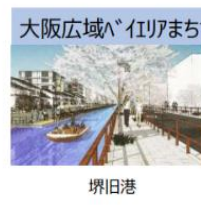
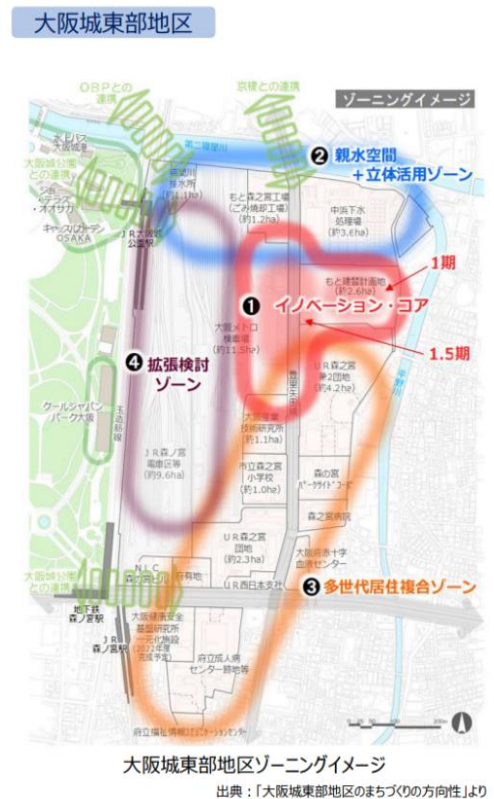
【うめきた地区】では、「みどり」と「イノベーション」の融合拠点として、「うめきた2期」のまちづくりが進められています。3年前の令和元年度見学会で訪問した「JR東海道支線地下化、新駅設置工事現場」では、

建設工事が進み、令和5年春、JR大阪駅の新たな改札口「うめきた地下口改札」や「西口改札」の開業が予定されています。開業後は、「はるか」「くろしお」などが新たに停車し、大阪駅から関空、和歌山への大幅な時間短縮が見込まれ、将来的には新たな南北新線「なにわ筋線」が乗り入れる予定となっています。

【新大阪駅前地区】では、リニア中央新幹線の全線開業によるスーパー・メガリージョンの形成などの新たなインパクトや、社会状況の変化に備え、広域交通の一大ハブ拠点となり大きくポテンシャルが向上する新大阪駅エリアを中心に、近接する十三駅や淡路駅の周辺を含めた一体のエリアを対象として、20年から30年先を見据えたまちづくりが進められています。

◆ 府内の主なまちづくり事業

「箕面森町」や「彩都（国際文化公園都市）」などの北大阪のプロジェクト、千里・泉北ニュータウンの再生・タウン推進、第二京阪道路や大阪外環状線等の沿道で交通インフラと連携したまちづくり、などに取り組んでいます。また、広域連携のまちづくりとして「自転車を活用したまちづくり」「生駒山系の自然を活かしたまちづくり」「淀川沿川の魅力を活かしたまちづくり」「大阪広域ベイエリアのまちづくり」を進めています。



◆ 大阪全体のまちづくりの方針（グランドデザイン）

ポストコロナを見据え、大阪・関西万博やスーパー・メガリージョン形成等のインパクトを活かし、東西二極の一極を担う「副首都」として、さらに成長・発展していくため、大阪都市圏全体を視野に、2050年を目標として、大阪のめざすべき都市像やまちづくりの方向性、その推進の取組等を示す新しいグランドデザインの検討が進められています。令和4年11月に、大阪府・大阪市・堺市において「大阪のまちづくりグランドデザイン（案）」がとりまとめられ、パブコメ等、必要な手続きを経て、令和4年内策定を目標としています。



【めざすべき都市像】

(1) まちづくりの目標

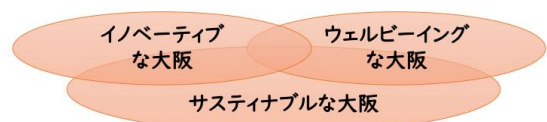
今後のまちづくりにおいては、人口減少・少子高齢化が進展していく中でも、都市間競争に打ち勝つ魅力あるまちづくりとともに、大阪に住み・働き・訪れる人々のより多様化するニーズに対応したまちづくりを進める必要があります。そのためには、これまで蓄積してきた都市ストックや多様な地域資源等を最大限活かすとともに、多様な主体の共創による「人中心のまちづくり」を進める必要があります。

このととなどを踏まえ、

まちづくりの基本目標を「未来社会を支え、新たな価値を創造し続ける、人中心のまちづくり」に設定し、

①～③の将来像の実現をめざしています。

- ①魅力的な国際都市として成長する大阪
「イノベティブな大阪」
- ②健康長寿で誰もが幸せを実感しながら暮らせる大阪
「ウェルビーイングな大阪」
- ③未来へつながる安全・安心な大阪
「サステナブルな大阪」



(2) めざすべき都市構造

■ 広域レベル

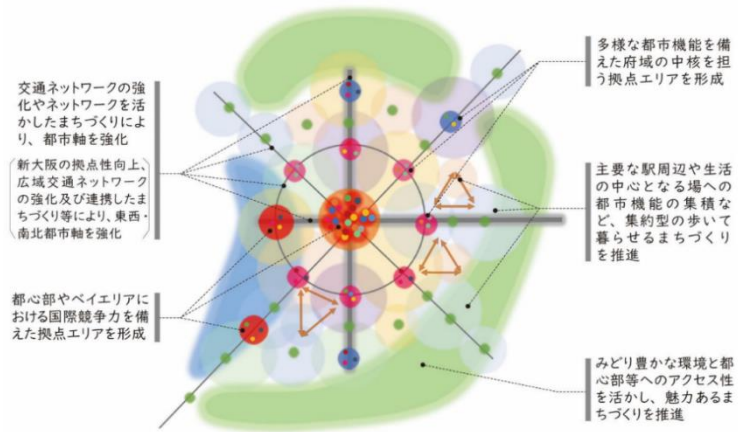
国土軸や環状軸、空港・港湾・新幹線等の広域交通インフラなど、広域的な都市構造を活かし、世界・アジア並びに全国や都市圏内外での人・モノ・情報の交流・連携を強化、スーパー・メガリージョンの西の核、世界のゲートウェイに相応しい都市圏を形成。



出典：地理院地図を加工して作成

■府域レベル

都心部やベイエリアにおける国際競争力を備えたエリア形成とともに、放射・環状の交通ネットワーク上を中心として、多様な都市機能を備えた特色ある拠点エリアや魅力ある生活圏を形成し、相互に連携する都市構造をめざす。



◆終わりに

今回、「講演会」という形で研修活動を実施させていただきました。ポストコロナを見据え、大阪のまちのあり方を描く「新しいグランドデザインについて」などについてお話をお聞きすることができました。グランドデザインの推進には、大阪府が中心となって、様々な主体が、それぞれがその役割を果たし、さらなる連携強化が必要と感じました。講演会に当たっては、大阪府・大阪市 大阪都市計画局 進士副理事のご協力のお陰で実施することができました。改めて感謝を申し上げます。その後の懇親会も含めて、充実した時間を持つことができたのではないかと考えています。当面は with コロナで活動を進めていきますので、引き続き、皆様のご理解とご協力、よろしくお願いいたします。

全建特別会員大阪府支会事務局：大阪府土曜会事務所内

会長 上畑憲光 副会長 中井二郎 若菜邦雄

事務局員 青木 誠 川上 隆 窪田 誠 佐伯敏明 高田三郎 長谷川明巧 堀田憲一

会員各位のご協力を得て引続き本会の円滑な運営に取り組んでまいりますので、よろしくお願いいたします。